（十六日夕刊）

磐城新聞

休刊 大祭第三日曜
定價 壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵稅十錢
廣告料（雜報欄行五十錢 場所指定二千錢增）
發行兼編輯印刷人 遊沼龍輔
發行所 福島縣平町田町拾六 磐城新聞社 電話五六四番

北國の旅から（四）

トラピスト修道院にて

默鐘生

×

現世の悩みと、生の煩悶を封じ込んだ壺の中で熟した果實の收穫を夢みる世捨人の生活、それは北國のほとりに建てるトラピストの修道院である

×

魂の慟こくのやうな鐘の響きは靜寂にすみきつてゐるあたりの空氣をゆるがした、修道師の讃美歌と祈禱の聲は唯莊嚴な祈禱室に人間のうめきのそれの如くこだまする

×

ひとしきり祈禱がすむと修道師は何れも白衣に身を纏ひ祈禱室から靜々と呪文見たいなものを口々にとなへ乍ら何處かの室に吸ひ込まれるやうに這入つてゆく修道師の祈りでも、修道師と語ることも修道師を見ることも參觀人には固く禁じられてゐるのだ彼等の修道院に於ける實生活は目のあたり觀ることができない。女子の修道院は湯ノ川にあるが、これは絕對に何人を問はず內部に入れない、當別にある男子の修道院は女子以外の男子ならば何人にも喜んで見せて呉れる、僕等のときは外人が案內して各室々の說明をしてくれたが日本語で巧みにあやつつてゐたが所々聽き取れぬ點があつた。

×

函館棧橋から當別通ひの發動機船へ乘つて港內に碇泊する汽船の間を縫ふて長い防波堤の先を曲るとコースは葛登志岬へ向けられる船が當別燈臺の沖あたりへ來ると高原に聳ゆる赤煉瓦造りの建物が見える是ぞ純然たる「カトリック」を奉ずる修道士が無言のまゝ幾多の戒律を守つて修道する道場なのだ

×

彼等は「シトー會」に屬する修道者で「聖ベネデイクト」の戒律と天主公教の教旨めに從つて修道する宗教團體である「祈りかつ働け」の祈禱と苦行とによつて靈肉共に修道し罪惡の汚れ多い現世を離れて「清貧」「不犯」「服從」を誓願して嚴肅に禁慾的宗教生活を營んでゐるのだ、現在全世界に男の修道院六十、婦人の修道院三十六あるといふ、東洋には支那の「北京」北海道の「當別」と「上湯の川」にあるのみ、當別の修道院は八九六年に始めて此の地に上陸した數名のフランス人に建てられ當時此の地方一帶は全く世人の知らない嚴寒不毛の荒野であつたがそれを彼等の艱難と努力とによつて現今のやうな立派な道路を開き廣壯な修道院を建て荒野は大牧場となつて幾百の牛を放し、又數百町步の開墾地を有して出來得る限りの野菜、果實は何んでも作つてゐる、特に乳製品の製造は其品質に於て本邦唯一と云はれてゐる

×

寂人西行や芭蕉がもし現世に生きてゐたら、彼はやはり修道士となつて北海の寂しい高原に「此の道や行く人もなしに秋の暮」以上の傑作かできたかも知れない

×

函館港の東端の岬であらう、それを立待岬と云つてゐる、一世の歌人石川啄木がその立待岬に立つたときの歌はけに私の心を動かさずには置かない

東海の小島の磯の白砂に
われなきぬれてかにとたわむる

×

啄木の墓もこの立待岬にある

×

北國の旅もいよ／＼ここ兩日中に切り上げて山形の博覽會を見、それから上野の美術展を見て、選擧前にはどふしても歸りたく思ふ旅のローマンス、それは湯の川溫泉に旅裝を解いてからはじまるのだが、私にとつてはそれは詩であり、歌であつた、そして旅情を慰むる溫い情けでもある

明日の吉凶

舊暦八月廿二日　新暦九月十七日

▲一白 地の利はなけども人の和はあり進んで吉▲二黑 內の屈する所ありとも外には大に伸びる日▲三碧 早呑み込みするときは意外の失敗を招くべし▲四綠 苦は身を磨くの砥石と思ふて辛抱すべき日▲五黃 身を低ふして根限り働くときは大吉となる▲六白 外に出でゝ人の口舌を聞くよりも內が完全▲七赤 內を能く整理する時は外はたのづから順調となる▲八白 運氣吉に向つて開け行く出入學名弘め何れも吉▲九紫 運氣澁滯あせればあせるほど躓きあり萬般注意

選界 鴨綠江節

小川鄉 吉岡獨步

縣會の選擧近づく九月の二十五日（ヨイショ）今度が普選い（ドッコイアリャ）試煉と思ひや（互ひにマアタ）自重をせにやならぬチョイ／＼

主さんは政黨政派にこだわるけれど私の理想は人物本位（ヨイショ）與黨野黨の（ドッコイアリャ）區別はなしに（有爲のマアタ）人物選みたいチョイ／＼

縣會に普通選擧が實行されて投票するのは（アリャよいけれど（ヨイショ）候補者選定（ドッコイアリャ）誤まればヨ（貴重なマアタ）一票がゼロになるチョイ／＼

講談

（141）

高橋掬太郎創作
布施平八郎揮毫

七八の怪人

神部清左エ門が辭してから、千世姫は妙信尼と乳人と三人で少時の間、身の成行やれ家の運命について悲しい物語をつづけてゐたがやがて夜も更けたので妙信尼は起ちかけて

「姫樣お歎き遊すのは御道理でございますが、何事も運命でございまする、人の力ではどうにもなる事でござりませぬ、自然のうちに運命の開ける時の至るのを、待つより他はないのでござりまする故、あまり悲しみ遊ばしてた身体を害ねられてはなりませぬ、成べくた心やすらかに遊ばされた方がよいと存じまする」

といたわり慰めるやうに云つた。

「ほんに妙信樣の仰せのやうに、あまりお歎き遊ばされてはた体のためになりませぬ。惡の榮えたためしないのが世の常、きつと近いうちに御運の開ける時が來やうと存じまする。それまでは御不自由の事もどうぞ御辛抱遊ばして下さりませ」

と乳人も口を添へて力をつけた。

「妙信どのや乳母の親切、妾は嬉しう思ひます。そなた等や神部殿が[illegible]ら妾はどう[illegible]知れぬ身体[illegible]れませぬぞ」

姫は泣くまいとすれど、あふれ來る涙を抑へかねるやうにはらはらとこぼれ落ちる露の雫に頰をぬらした

「まあ勿体ない其のお言葉これと申すもみな先主君樣から受けた御恩の萬分の一を報じやうためでござりまする」

と妙信尼と乳人は感涙にむせんだ。

「では、姫樣ごめん下さいませ。どうぞ今宵はよい夢など御覽下さいますやう」

と妙信尼は涙を衣の袖で拭つて思ひ直したやうににつこり微笑んで起ちあがつた。

「そんなら、また明日……」

と姫も漸く涙を拭いて云つた

妙信尼が姫の居間を出て行くと乳人は琴の駒をゆるめて袋に收め、元のやうに床の間に立てかけ、茶の道具なども取片附けて姫の寢具の用意をした。

「では、どうぞた寢み下さいませ」

と云はれて姫は机の上の寫しかけの經を片付けうちかけを脫ぎ着物の帶を解き寢卷に替ねて床に入つた

乳人は靜かに夜著をかけ風の入らぬ樣に四隅を抑へそれから姫が說いだうちかけを衣桁にかけ着物や扱帶などを丁寧にたたんで亂れ箱に收め、裾へ退つて挨拶をして次ぎの間に退つた。

夜は靜かに更けた

姫は妙信尼の云ふ通り何事も運命の業と諦めて靜かに眠らうとしたけれど思ふまいとすれば尙更に萬感が胸に迫つていつまでもねむることが出來なかつた

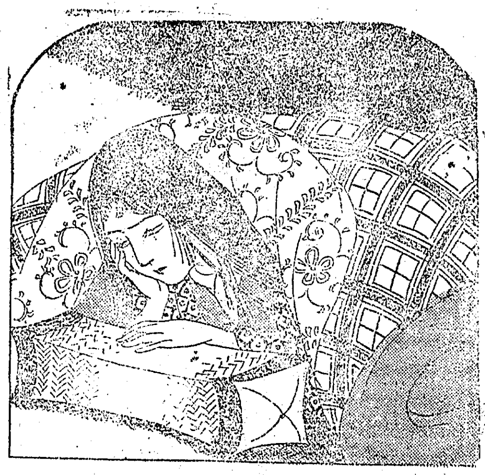
次の間の乳人は早や眠りに入つたらしくかすかな鼾が洩れ聞えた。

その眞夜中、この妙光寺の裏手の塀外に影のやうに姿を現はした七八の怪人があつた。何れも黑裝束に覆面してゐるので顏は見ることが出來ないが中に頭分らしい一人二人例の松並木に現れて往來の武士を斬つて諦てる怪人と同じく天狗の假面を冠つてゐた、

「それッ！」

と天狗の假面が、あたりに氣を配り乍ら聲をかけると中の一人が用意の繩を取り出して塀の中なる櫻の木の梢に投げかけた。

繩は一度で巧く引つ掛つた。ぐつと引くと花が無慘にもはらはらと散つた。



吉麻山
中風靈藥

定價一週分九〇　二週分一、七〇　三週分二、五〇

動脈硬化症、腦溢血、半身不隨、言語難澁、其の他中風より起れる諸症に偉効を奏す

……是非御試用を勸む……

平町五丁目角
代理店 山野邊藥局

營業品目
絹糸、絹紡績
綿糸、染糸、組紐
漁網糸、人造絹糸
カタン糸、輸出用加工糸
眞綿、其他糸物一式

東京市日本橋區通油町
株式會社 藤掛商店
電話浪花三五一一番　振替東京三三四〇番
糸界の羅針盤 糸紐通報 御一報次第直送

小店員募集
十五才以上十七八才迄 五名
小學校卒業程度御希望の方は磐城新聞社御出で下さい。委細面談

貸地廣告

平町郡役所より稅務署附近の新開地に一千餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絕對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極ぐ安値にお貸しいたします
御希望の方は電話なり戴けば社員が御伺ひして親しく御相談に應じます

小名濱商事株式會社 平出張所
電話 六〇三番 五四一番

良品廉賣に勝る商略なし

磐城平町五丁目
和洋銅鐵金物問屋 (久) 釜屋商店
磐城セメント株式會社特約代理店
諸橋久太郎
電話 九番 一三九番
振替貯口金座東京一〇九五六番

確實敏捷は(久)の生命なり

期間 十二月末日マデ

日々皆樣の御贔負に酬ゆる爲め左記の通り大々的勉强仕り候
是非引續き御愛顧の程御願申上候

記

梅 參圓也（御一人前 藝妓、車賃往復 御酒御料理三品）
松 五圓也（御一人前 藝妓、車賃往復 御料理五品）
櫻 七圓也（二人樣デモ差支アリマセン 藝妓、車賃往復 御料理七品）

〔以上現金ニ限ル〕

松ケ岡公園池ノ端
割烹 ときわ
電 二二六番

夜間診療

胃腸 內科 十二指腸虫病 專門 內科部
梅毒 淋病 婦人病 皮膚病 專門 外科部

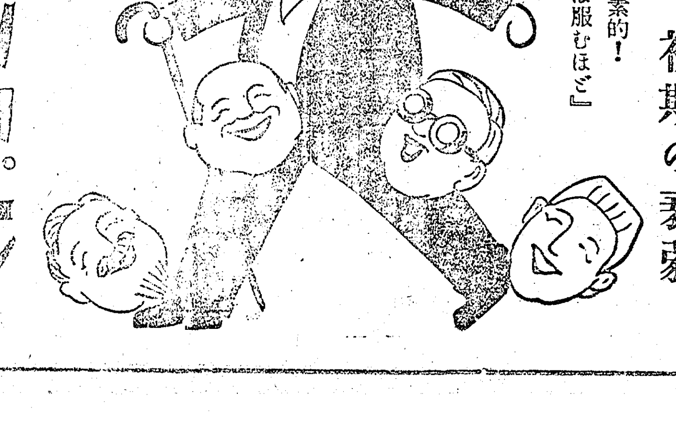
平南町 松村病院 電話一〇七

內科。外科。婦人科。小児科。花柳病科。

磐城病院

平町田町本通り（電話一一四番）
入院隨時

生殖機能は
健康の中心
精力の源泉
閑却され易き初期の衰弱



「これは素的！服めば服むほど」

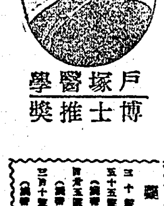
トッカピン

生殖機能が＝[illegible]すれば全身萎靡して、[illegible]する、[illegible]早漏の徵候に[illegible]せず、直ちにトッカピンを

神經衰弱が＝原因で罪を犯し、[illegible]來し、落伍者となり、甚だしきは自殺するものさへある！[illegible]であらう[illegible]トッカピンを服んで直ちに復活を…

不眠症＝一晩の不眠がされ[illegible]身心を疲はすであらうか…二日三日と不眠が續けば身體は綿のように疲弱する、何んとかして快い睡眠を求めたいといふ人にトッカピンは眞向きです

精力增進＝生存競爭は日一日劇烈となつて行く現代に「力」がなくて何が出來よう…百萬圓の金よりも貴きは健康精力である。寄薬の如く清新なる活力を求むるものは服め！



戶塚醫學博士推獎

定價
三十錠 三圓
五十五錠 五圓
（郵稅本社負擔）
百廿五錠 拾圓
（郵稅本社負擔）
三百十錠 廿圓
（郵稅本社負擔）
（用法）一回一錠 一日三回

發賣元 丁子堂藥房
東京市銀座新肴町八番地 振替口座東京七二二一番
大阪市西區立賣堀北通二ノ九 振替口座大阪百六番

◎全國到る處の藥店にあり

政黨政派を超越して 鈴木氏に集る郡民の熱誠
既に定評ある人格手腕の人 聲望今や全郡を壓す

石城郡下に於ける縣議戰はいよ〳〵餘す處何幾もなく運動は益々猛烈を加へ各候補とも必勝を期し言論戰に宣傳戰に物凄まじきものがある、政友派公認鈴木辰三郎氏は前回縣議戰に於て不幸落選を見たが今回は飽くまで當選し縣政の爲め

忠實な地方民の公僕として福利の增進に力を致すべく悲壯な覺悟を以て涙ぐましき捧心の活動を續けてる一方既に鈴木氏の政治的手腕と人格を熟知せる選擧民の多くは鈴木候補の爲め絶大な援助を措まないものがあり此の場合は政黨政派を超越し眞に力の人鈴木辰三郎氏を當選せしめざるらずとなし如何に或る種の手段を以て斬り込むとも絶對情實等に動かない鍵實な穩れた

選擧人が各町村とも意想外に多く隨つて票實は豫想以上の實收穫を豫想されてゐるが氏の最有望な地盤たる山手及び片濱は田子野崎、鷺の候補、鋏擊されるのみならず投票日までの間に於て或る一派の功妙な手段により不利の地に陷らぬとも限らぬので同氏の選擧本部は事務長松本德一氏以下非常に緊張し各町村に監視員を派し

買收等による卑劣な敵の襲擊を防禦し一分の隙もなく當選一途に進みつゝあり若し現在の勢力を以てする時は絶對に安心し得る域にまで到達したが鈴木氏が各有權者に發した挨拶狀は左の如きものである

立候補挨拶 鈴木候補者の

縣會議員選擧期日は既に目睫の間に迫つたのであります此の場合諸君は政治的責任の重大なる尊き權利行使が將來民衆の利福を信條として十分の御考察をなされ居らるゝことゝ存じます此の秋に當り自己の不識を顧みず立候補者たることは內心忸怩たらざる能はぬものでありますが、推薦者諸氏の熱心なる御勸說は遂ひに縣政の第一線に純情を捧ぐる覺悟を持して石城郡民諸君の御聲援を仰ぐ所以となつた次第であります。私は縣政多端の今日須らく議場專一主義の範圍外にも積極的活躍に俟つべき仕事が少くないと思はれます。幸ひに各位方の同情により當選の榮を得ますれば公僕として大衆の味方として利害休戚の爲めには只管至誠の一路に邁進する決心であります　而して當面すべき個々問題に對しては常に大處高處より達觀して適處すべく深く心に期してゐる次第であります。斯くの如く政治的見地を基調として縣政運行に渾身の力を盡すべきとを誓ふて憚らぬものであります。然れ共私は常に敬愛する石城郡民十七萬諸君といふ一大背景に賴つて步一步を圖るべきを斷じて閑却致しません以上立候補に對する信念の一端を述べて有權者諸君の御同情を請ふ次第であります

最後に今回は普選法の施行に依り從來の如く親しく御面接の上御依頼申上ぐることは能はざる場合に有之自然充分の御了解を得難く誠に遺憾に存じます就ては私の微意御賢察被下御援助賜度、重ねて懇願致す次第であります

昭和二年九月

大成功の 鈴木候補政見
ゆふべ夏井校に 豊間江名に善戰

鈴木辰三郎氏の政見發表演說會は到る處歡迎を博してゐるが昨十五日午後六時より千葉彥治、佐々木龍君、大河原茂平氏等の應援を得出身村夏井小學校に於て開催したが聽衆五百餘名に達し各辯士の熱烈な演說と鈴木候補の土木勸業政策より農村振興に亙る實質的な政見は滿場の聽衆を陶醉せしめ大成功裡に十時散會したが同一行は今十六日午前十時より豊間村、江名町に於て同樣氣勢を擧げた

書狀配達に名を籍り 實は戸別訪問
巧妙なやり口に對し 當局取締に惱む

石城の縣議戰を見ると普選の第一次の事とてその取締については直接その衝に當る警察官は何れも非常に困難を感じてゐるやうであるが中でも一番こまつて居るのは

郵便によらぬ書狀配達についてゞある、即ち選擧についての候補者の宣言及び推薦狀は郵便を以て發達するのみを原則とするも選擧費の制限された結果は之が配達を郵便によるよりも人をして一々配達するを經濟的とする向もあるので目下各方面に於て之をなしつゝあるが之について當局の解釋は右書狀の配達は運動員其他

所謂其人の配達したものによつて候補者が利益を得ると云ふのは勿論不可とするが、それが機械的に働く人夫の如きものであるならば差支ないといふ譯になつてゐる、それで運動員の中には巧に人夫に變裝して書狀配達を口實として戸別訪問をするものも尠くはなく、殊に直接取締の任に當る警察官が之が果して

機械的に働く人夫であるか否かを認識する事が至難であり斯うした處より思はぬ問題を惹起するので非常に惱まされてゐる模樣である

清き一票の行り所(二)
平町　JK生投

議員候補者として立つ者は一に其の品性、德操、材能、識見、辯舌等によりて輸贏を決するの覺悟がなければならぬ、是等か選擧場裡に立つて必要欠くべからざる武器でなければならぬ

然るに今次の選擧競爭上に立つてる者未だ舊套を脫せず或は權勢を恃み或は情實を挾み、甚しきは金錢財賄の力を利用して勝を制しやうと競ふものも見ゆる如斯なると何の爲めの選擧法改正てあり何の爲めの普選であるか誠に奇怪千萬の次第で選擧場裡の實情如斯なる以上は到底適當なる選良を得らるべき道理がないと思ふのである。

日ならずして選擧に臨まんとする郡內參萬有餘の選擧民諸君能く此點に留意し若し權勢を恃み情實を挾み或は金錢財賄の力を利用して勝を制しやうと爭ふものありとせば須く相共に三思するが宜しい

イ、權勢を以て我れを動かさんとするは我れを動かし議員の地位を得その地位を利用して縣利を私しせんとするものに非るか

ロ、情實を以て我れを制せんとするものは我を制して議員の地位を得その地位を利用して民福を私せんとするものにあらさるか

ハ、金錢財賄の力を以て我れを誘惑せんとするは我れを誘惑して議員の地位を得その地位を利得して更に政治上の私便私福を貪らうとする野心に出てたるに非るか

當業者の自覺から 豫想外の成績
秋繭十萬圓を取扱つた 四倉市場取引高

石城郡販賣利用組合經營の四倉繭市場は去月廿六日開市以來の取引總高貫に一萬三千貫に達し同期間中出荷輻湊の爲乾燥が間に合はず二日間を休業する盛況で產繭湊になつた去十四日にも二百十三萬千三百三圓廿六錢の

商談を整へ買日の最高價格六十四圓五十錢最低四十八圓買馴れ六十圓九十錢を唱へ之れを同地方に於ける使買商の手を經たるものに比ぶれば十圓の額差で庶民銀行の趣旨目的で生れた同市場　堅實有利なる取引が漸く同地方養蠶家に理解されつゝあるを示して來たが尚徹底しない生產者が少なからず奸商の甘言に乘せられて一時地方問屋口に運ばせられた

自己生產の繭が前記市場に轉送され中間者に利をしぼられてゐるのに氣づかないのを遺憾とされてゐるが來月初旬まで取引を續ける同市場では向後の出荷八千貫を見込み秋繭總計少なくも二萬貫價格十萬圓以上を豫想してゐる

平署屠殺數

平警察署管內八月中の屠殺數は七十五頭で入譯は牛六、馬四、豚六五同年の同期に比し廿一頭の增加を見てゐる

久ノ宮祐子內親王
けふ赤坂離宮に於て 內親王御命名

(東京電話)國母陛下には御慶事後の御經過しかも御順調に第二內親王殿下にも御健かに御發育遊ばされ彌か上にも皇室、御繁榮を赤子は御慶び申上げてゐるが今十六日午前十時四十分赤坂離宮に於て御命名の儀を執り行はせられ同時に久宮祐子(ひさのみやさちこ)內親王殿下と御命名發表された

犯罪事實を根底から否認
審理の進行に淀みが生じた 白水五人殺し公判

湯の嶽の頂きに殘雪なほ高く肌寒きの春三月二十三日午後十一時頃內鄕村大字白水長槻農兼質◯業大越治七長男五平と妻ヒサ、長男良平、次男融、叔母リツの五名を鏖殺し縣下の耳目を震駭せしめた恐る可き犯人治七の實弟同村大字白水字廣畑農鈴木治八郎(四九)に係る殺人事件の公判は既報の如く今十七日午前十時から福島地方裁判所平支部公判廷に於いて千葉裁判長係り小野村、石坂兩判事倍席窪田檢事立會塚崎(東京)安藤(平)兩辯護士列席の上開廷された

定刻千葉裁判長は被告治八郎に對し型の如く住所職業氏名等を聽取する所あり窪田檢事立つて此の驚異すべき治八郎の兇行に依る起訴理由を述べ次いで千葉裁判長開口一番事實調べるに入るや治八郎は頭初から平警察署並、檢事局、豫審廷に於ける陳述を悉くひるがへし犯行の事實を根底から否認した(以下裁判長と被告の訊問應答)

裁判長「今檢事が述べた五、の妻ヒサとの情交關係から遂に五平一家五人を鏖殺したのは先月廿三日の準備公判で聽いてゐるが今日此の公判廷で五人を殺した事實並にヒサとの情交關係は就て述べて見よ

治八郎「殺した事は丸切り覺えありません勿論ヒサとの情交等の事も絶對にありません

と犯罪事實を否認し廿四日の朝治七からの知らせで一番先に駆け付けたが物盗であるか怨恨からか知れませんと述べ五平夫婦や實兄治七夫婦が人から怨を買ふ樣な人柄であるかとの問に對しては

絶對そんな人柄ではないと思ふと答へ、矢つぎ早やなヒサとの情交關係に就いての審問に對しては全部知らぬ存せぬの一點張りで强硬に否認し才判長より平警察署に逮捕された四月七日以後十三日に至り犯罪事實を自白し檢事局、豫審廷の取調べに對しても眞犯人であると自白し

犯罪全部を肯定し之れはヒサとの情交關係兇行を演んじた旨を自白したのは何故であるかと鋭く突込れたのに對し警察署で夢中になつて心にもない事を申立てたが事實は絶對に覺えありません」と答辯し血痕の附着してゐる證據の絹絆纏と脚絆を突付けて此の血痕は石川哲郎の鑑定で人血であるとの事だが此の血痕はどうしたと急所を突かれたが私に痔持で常に脫肛し出血が甚だしいからその血が附着したのであらうと平靜に答へ審理は稍々澁滯の模樣となり萬場緊張裡に更に重大なる物的證據として治八郎を眞犯人なりと推定せしむるに至れる五平宅附近に投げ棄ててあつた

破れ提灯の訊問に入るや治八郎は之れまた根本より前の陳述をへし其の夜若松喜藤多方から借りた提灯は午後九時自宅に持つて歸つたのであるとて警察や豫審の陳述を片ッ端から飜ひし犯罪事實を全然否認し一先づ訊問を終つたが塚崎、安藤兩辯護士から今回の事件は眞實に重大な事件で殊に提灯の投棄したかしないかは被告が無罪となるか

死刑となるかの岐路にある問題であるとて裁判長の現場臨檢を申請し、塚崎辯護士は此の事件は頗る疑問の多い事件であるから私等は勿論裁判所も共力して事實の眞想を明らかにするため努めて戴きたいと治八郎の妻チヨを始め治七妻ハル、鈴木留次郎、ヒサの實母アサ、市川仙藏、七海寅干、小松松太郎等七名證人を申請窪田檢事からも島田醫師を申請して休憩した時正に一時四十分である

落付き拂つた 被告治八郎 傍聽人の山

此の日驚異すべき白水五人殺の眞想を知らんとして定刻前既に傍聽席は萬塲立錐の餘地ない程詰め切り更になだれ打つ數百名の人は公判廷を圍んで人垣を造つたが兇暴なる五人殺の被告人治八郎は二名　看守に護られて鐵茶色　絽羽織に絽仙臺單衣セルのはかまを着し入桓を分け入廷し比較的落付いた態度を見せて裁判長の訊問に對しては小聲ではあるが明瞭に答辯してゐたが治八郎は一見質朴な溫容でを想せるに充分な容貌これが五人殺の眞犯人かと稀異の感を抱かせしめた

七海外二人の 證人を喚問 次回來月十一日

別項五人殺事件公判は午後二時半再開し塚崎、安藤兩辯護人より午前中申請した治八郎ノ妻チヨ外六名の證人中被告治八郎が無罪か死刑かを決する提灯問題に重大な關係を有する小松松太郎、市川仙藏、七海寅干の三名を證人として申請を許可する旨千葉裁判長から言渡しあり午後三時閉廷次回公判に來る十月十一日午前十時から開廷の上證人調べある筈

新法を無視する 警察當局に批難
某候補者の戸別訪問も 結局洪手傍觀か

彼我必死の猛闘を續けてゐる縣議選擧戰の大結めも後十日に足らず切迫し競爭の度は益々深刻化し如何に新選擧法が嚴重に取締りを命じても其の間可成り功妙な運動が行はれてゐる模樣か漸やく見えて來たので平警察署では高等課の總動員をなし、かゝそのにも違反行爲をなからしむべく嚴重監視、眼を怠らないが殊に競爭最も熾烈なる平町に於て某候補者の戸別訪問並に南町の某の△△事件江名町方部に於ける違反事件等然かも一點疑ふ餘地なき違反事件を平署は知るや知らずや拱手傍觀不周の儘でゐる事は益々之れ等惡行爲を助長せしむるもので新選擧法の精神を無視するものであると可成有權者間に論難されてゐる模樣である

桶賣公會堂に 井上氏論陣
各地共大成功

井上茂作氏は昨十五日泉、小名濱に政見發表演說會を開き氏一流の卓見を發表し大成功を納めたが更に今十三日は馬目武之助、多田井笑次郎諸氏の應援で川前村桶賣公會堂に演說會を開いた

平 館隣り
御料理 鰻蒲燒 仕出し
魚榮
電話四二四番

鐵筋コンクリート
鐵骨組立
和洋建築
文化式建築
設計監督
土木、建築、請負業
合資會社 丸三森川組
社長 大森鎭平
東京日本橋茅場町二〇
電話茅場町66四五二番

入院隨意(自炊の便あり)
外科專門
平 南町
上田外科醫院
電話一二九

社員募集
一、年齡二十才前後
一、小學校卒業
一、身体壯健にして自轉車に乘り得る者
一、俸給其他は面談の上
一、成可町內居住者
右社員一名至急募集す
平町字南町(五十番地)
磐城殖產合同株式會社

秋冬物品揃
丸帯　江戸褄　小紋錦紗　大島紬　銘仙　羽二重友仙　肩裏類
三井呉服店
電話三十八番

釀造元
銘酒 世界吉
石城小名濱町
清水屋
小野晋平
各炭鑛御用達
電話六番

故荊妻ヨシ儀葬儀の際は御多忙中の處御會葬被下成御懇情の段有難く略儀紙上御禮申上候
昭和二年九月十六日
平 永山小平
外親戚一同